

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表

坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三【以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員】

田中熙巳【日本被団協・事務局長】、郭貴勲【韓国原爆被害者協会・名誉会長】

向井司【北米原爆被害者の会・会長】、森田隆【ブラジル被爆者平和協会・会長】

サーロー・セツコ【カナダ在住】、山下泰昭【メキシコ在住】

ヒバクシャ国際署名連絡会 連絡先

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番5号 ゲイブルビル 902

☎ 03 (3438) 1897 HP: hibakusha-appeal.net

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える 核兵器廃絶 国際署名

被爆者は
核兵器廃絶を
心から求めます。



私は被爆者の訴えに賛同して署名します。

氏名	住所

※この署名は、これ以外の目的で使用しません。みなさんの署名は毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】 自然派くらぶ生活協同組合

〒192-0045 東京都八王子市大和田町 2-19-20

☎ 042-644-1811

署名期間 2018年6月～2020年9月末まで

提出法 生協の配達便でご提出ください。用紙はHPからもダウンロードできます。

締切 1次：2018年9月末 2次：2019年9月末 3次：2020年9月末

自然派くらぶ生協は、被爆者の方々の強い思いに賛同し、核兵器のない未来の実現に向け、私たちができる第一歩として、この「ヒバクシャ国際署名」に取り組めます。

一人でも多くの声を国連に届けましょう。

2018年6月